

平成二十七年学力検査

全日制課程 B

第一時限問題 国語

検査時間 九時十分から九時五十分まで

「解答始め」という指示があるまで、次の注意をよく読みなさい。

注 意

- (一) 解答用紙は、この問題用紙とは別になっています。
- (二) 「解答始め」という指示で、すぐ学科名と受検番号をこの表紙と解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (三) 問題は(1)ページから(6)ページまであります。(6)ページの次は白紙になっています。受検番号などを記入したあと、問題の各ページを確かめ、不備のある場合は手をあげて申し出なさい。
- (四) 答えはすべて解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (五) 印刷の文字が不鮮明なときは、手をあげて質問してもよろしい。
- (六) 「解答やめ」という指示で、書くことをやめ、解答用紙と問題用紙を別々にして机の上に置きなさい。

学科名			
科			
受検番号			
第			
番			

国語

— 次の文章を読んで、あとの(一)から(六)までの問いに答えなさい。

著作権の関係上、  
文章は表示できません。

著作権の関係上、  
文章は表示できません。

著作権の関係上、  
文章は表示できません。

(河合隼雄『大人になることのむずかしさ』による)

(注) ○①②③は段落符号である。

○最近この文章は一九八〇年代の初めに書かれた。

○イマジネーション＝想像。 ○無為＝何もしないこと。

○萌芽＝きざし。

(一) ① にあてはまる最も適当なことを、次のアからカまでの

中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア しかし      イ ただし      ウ つまり      エ ところで

オ たとえば      カ なぜなら

(二) ② 単なる願望充足の空想であつては、ためである とあるが、その理由

として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 心的エネルギー量の大きい空想は、創造活動の妨げとなるから。

イ 心的エネルギー量の小さい空想は、創造にはつながりにくいから。

ウ 創造に発展するイマジネーションとただの空想は、判別が難しいから。

エ 創造につながる空想は、願望充足のための空想に比べてはかないから。

(三) ③ 大人をそのようにとらえる とはどういうことか。その説明として

最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 大人とは、自分の中に子どもの頃の創造性が残っていても、その

価値を認めようとしないう存在であると考えること

イ 大人とは、子どもっぽいイマジネーションを捨て去ることで、高

い創造性を身に付けた存在であると考えること

ウ 大人とは、創造性よりも安定性を重視し、ひたすら型どおりのことを繰り返している存在であると考えること

エ 大人とは、創造に必要な安定したイマジネーションをもつ点で、本質的に子どもと異なる存在であると考えること

(四) 第四段落には、真の大人についての筆者の考えが述べられている。

それを要約して、七十字以上八十文字以下で書きなさい。ただし、「疑問」、

「創造性」という二つのことばを使って、「真の大人とは、……」とい

う書き出しで書き、「……人のことである。」で結ぶこと。二つのこ

とばはどのような順序で使ってもよい。

(注意) ・句読点も一字に数えて、一字分のマスを使うこと。

・文は、一文でも、二文以上でもよい。

(五) 第五段落の内容を説明した次の文の   にあてはまる最も適

当なことばを、第五段落の文章中からそのまま抜き出して、三字で書きなさい。

創造的な人々は、創造活動の過程で、ここが一時的に子ども

の頃のような状態となり、そのときに得られるあらたな着想を、

  に高めている。

(六) 次のアからエまでの中から、その内容がこの文章に書かれているこ

とと一致するものを一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 創造性を発揮して新しい何かを創り出せるかどうかで人は評価される。

イ 創造性は少数の空想的な大人だけがもつイマジネーションから生じる。

ウ 創造性の乏しい大人に退行現象が起きるのは探索に疲れたときである。

エ 創造性が豊かな大人ほど自分に課された義務を果たさない傾向がある。

オ 創造性は自己の内なる子どもとの対話をきっかけとして現れてくる。

二 次の文章を読んで、あとの(一)から(六)までの問いに答えなさい。

(本文にいたるまでのあらすじ)

県立若美谷高校二年生の武宮一平、生田リュウ、平野拓史は、映画同好会のメンバーである。秋の高校生映画コンクールに作品を出そうと、主演女優の候補を探している。三人は、図書室にいる元演劇部員の立花先輩を訪ねた。

著作権の関係上、  
文章は表示できません。

著作権の関係上、  
文章は表示できません。

著作権の関係上、  
文章は表示できません。

著作権の関係上、  
文章は表示できません。

(注)

○ ①②③は段落符号である。

○ シミュレート④⑤⑥ここでは、実際の場面を想像して練習すること。

○ 洗礼⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿は、考え方などに大きな変化をもたらすような経験をする。

○ ①にべもなく②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿につけなく。 ○ 一瞥①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿と見ること。

(一) ① 目がしばたたかれた の説明として最も適当なものを、次のアから

エまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア まじまじと見つめたこと      イ だんだんうるんできたこと

ウ かつと見ひらいたこと      エ しきりにまばたきをしたこと

(二) 本文中の「A」から「C」までのそれぞれにあてはまる最も適当なこ  
とばを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

(辻村深月『世界で一番美しい宝石』による)

ア すんなり                   イ たぶん                   ウ つい  
エ ふいに                   オ ふたたび                   カ もし

(三) ゆつくりと首を振った とあるが、このときの立花先輩の心情の説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 「洗礼」という言葉は大きさであるが、演劇部時代の自分が高く評価されてまんざらでもないと感じている。

イ 「洗礼」という言葉だけでは相手が本当に映画好きな人間であるかわからず、信用できないと思っている。

ウ 「洗礼」という言葉から相手も自分のように本が好き人間であると感じられ、親近感を抱き始めている。

エ 「洗礼」という言葉を使う相手には興味をもったが、誘われるまま映画に出る気にはなれないと思っている。

(四) 次の一文が本文から抜いてある。この一文が入る最も適当な箇所を、あとのアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

言葉遣いは柔らかいけど、有無を言わさぬ口調だった。

ア 本文中の(へ1)                   イ 本文中の(へ2)

ウ 本文中の(へ3)                   エ 本文中の(へ4)

(五) 脈はある とあるが、拓史がそのように思う理由として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 演劇部をやめていても、主役を演じていた立花先輩ならどうすれば高く評価される映画が撮れるかを知っているはずだから。

イ 一平の熱意は自分やリュウに比べて強く、自分たちが一緒に行かないことかえって説得の効果が上がっているはずだから。

ウ 図書館にいる立花先輩を訪ねること自体が拒否されているわけではなく、先輩は一平の話を毎日聞き続けてくれているから。

エ 自分とリュウは映画製作などに本当は興味をもっていないが、好きな立花先輩なら一平の話を理解してくれるはずだから。

(六) 映画同好会をめぐる登場人物の思いを説明したものととして最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 一平は、自分のような映画好きの居場所を学校の中に作るために、どんな犠牲も自分一人で払わなければならないと思っている。

イ リュウは、一平の映画作りに対する情熱には敬意を抱いているが、部に昇格させることへのこだわりは理解できないと感じている。

ウ 拓史は、自分のような運動が苦手な者の居場所は少人数がよいと思っているが、一平の熱意にひかれて協力する気になっている。

エ 立花先輩は、演劇部をやめた立場上目立つことはしたくないため、映画出演を毎日勧誘に来る一平のしつこさに心底あきれている。

三 次の(一)、(二)の問いに答えなさい。

(一) 次の①から③までの文中の傍線部について、漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

① 旅券の申請書類に顔写真を添付する。

② 相手の表情からその胸中を忖はかる。

③ 時代のチヨウリュウに乗って事業を拡大する。

(二) 次の文中の(ア)④(イ)にあてはまる最も適当なことを、あとのアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

世界的な選手と握手する(ア)④(イ)のチャンスをつかんだ。

ア 一喜一憂   イ 海千山千   ウ 一念発起   エ 千載一遇

四 次の古文を読んで、あとの(一)から(四)までの問いに答えなさい。(本文の……の左側は現代語訳です。)

福と禍と外より来たるものにあらず。みづから善悪の行ひより招く

なり。たとひその身に勢ひありとも誇るべからず。福ありともおごるべ

からず。いはんや貧しきとてあざむくべからず。天理まことに時あり。

それ禍のものは、おごりを好み欲深き、この二つを種として偽りあざむ

き、ねたみへつらひて、天道にそむき、人をくらし、思ひの外なる憂

へにあふなり。胡文定公のいはく、「おほむね人の家は、すべからく常に

不足の所あらしむべし。もし十分の快意を隄防すれば、不恰の好事あり

て出づ」といへり。物ごと十分に心のままに足ることなけれ。十分なれ

ば禍おこる。およそ事ごとにおのれが心になはざる時は、咎をふせて

天道をうらむる。これ大なる誤りなり。天道はその人をめぐむに厚薄な

し。ただわが身の非を思ひ知るべし。

(注) ○天理・天道 万物を支配している天の道理。

○胡文定公 中国宋代の人。

(一) ① すべからく常に不足の所あらしむべし。の現代語訳として最も適当なもの、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア いつも不足するところがあるようにしておくのがよい。

イ いつも不足するところがあるというわけではない。

ウ 少しも不足するところがあつてはならない。

エ 少しも不足するところがないようにするのがよい。

(二) ② これ がさしている内容として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 幸運は不満足な状態のときに訪れるものであるという考え

イ 禍が生じるのは何事も満ち足りているためであるという考え

ウ 物事が思いどおりにいかないのは天のせいであるという考え

エ 自分のあやまちを隠して天からの恩恵を得ようという考え

(三) ③ わが身の非 とあるが、ここでの「非」の根本にあるものを表すことばを、古文の中からそのまま抜き出して、九字で書きなさい。

(四) 次のアからエまでの中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するものを一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 自分自身の努力で幸福を手に入れたと思つても、禍福は外からやつてくるものであるため、いつ不幸に転じるかわからない。

イ 天はどんな人にも公平に恩恵を与えるものであり、災難が降りかかるとしたら、それは天道に背く自らの行為の結果である。

ウ 自分のあやまちを棚に上げて他人ばかりを非難していると、天の怒りを買つて、おのずと幸福を遠ざけてしまう結果になる。

エ 思うような幸運に恵まれず、貧しいままであるからといって、自分が豊かであることを自慢する人をうらやんではいならない。

(問題はこれで終わりです。)